

ふなよせしょうざかいせいせき  
2 舟寄正堺遺跡

所在地：坂井市丸岡町長崎・舟寄

調査原因：主要地方道丸岡川西線福井港丸岡  
インター連絡道路改良工事

調査期間：令和3年9月～12月

調査主体：福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

調査面積：4,160 m<sup>2</sup> (1区 2,430 m<sup>2</sup>、2区 1,730 m<sup>2</sup>)

時代：弥生・古墳時代



位置図 (S=1/50,000)

**遺跡について** 坂井平野のほぼ中央、兵庫川左岸に位置する弥生時代後期から古墳時代前期の集落遺跡です。市道の東側を1区、西側を2区として、舟寄正堺遺跡では初めてとなる調査を行いました。

**主な遺構** 1区では、溝 27 条、土坑<sup>どこう</sup> 14 基、柱穴<sup>ちゅうけつ</sup> または小穴 335 基などを検出しました。1区の東端から西端までを1条の溝が横断しており、この溝の南側で3棟、北側で1棟の掘立柱<sup>ほったてばしら</sup> 建物を確認しました。掘立柱建物は2間×1間のものが3棟、2間×2間のものが1棟です。このほか、特筆すべき遺構として土坑 11 と柱穴 254 があげられます。土坑 11 は長辺約 1.4m、深さ約 0.5m を測る2段掘りの土坑で、底部で横倒しになった甕1個体が見つかりました。また、柱穴 254 は長辺約 0.3m、深さ約 0.3m を測る柱穴で、上層で壺が正位にて出土しました。口縁部を欠いていますが胴部は本来の形を保持しており、何らかの儀礼に伴うものの可能性が考えられます。

2区では、土坑 2 基、小穴 21 基のほか、兵庫川の支流と考えられる自然流路とそれに平行する溝 3 条などを確認することができました。調査区北側を東西方向に流れる自然流路は、土器の出土状況などから集落域が形成される頃には流路の半分程度は埋没していた可能性があり、調査区外の北方に湿地が広がっていたと想定されます。

**主な遺物** 弥生土器<sup>はしき</sup>、土師器、石器などが出土しました。弥生時代後期から古墳時代前期の土器が主体ですが、弥生時代中期の土器も見つかっています。また、石器は、石鏃<sup>せきぞく</sup>・打製石斧<sup>だせいせき斧</sup>・磨製石斧<sup>ませいせき斧</sup>・叩き石<sup>すりいし</sup>・磨石<sup>くぼみいし</sup>・凹石<sup>きり</sup>・錐<sup>といし</sup>・砥石<sup>りよくしよく</sup>など多岐にわたり、緑色凝灰岩片<sup>ぎょうかいがん</sup> 1 点や、安山岩<sup>あんざんがん</sup> の剥片<sup>はくへん</sup> なども出土しました。(藤本聡子)



1・2区 全景（西から）



1区 全景（南から）



1区 掘立柱建物1（南から）



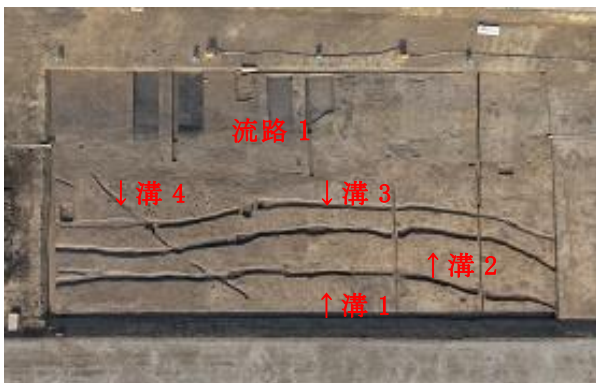
1区 掘立柱建物2（南から）



1区 土坑11 遺物出土状況（東から）



1区 柱穴254 遺物出土状況（南東から）



2区 全景（南から）



2区 流路遺物出土状況（東から）